

平成 31 年度（第 1 回）社会教育委員会議 会議録

- 1 開催日時 平成 31 年 4 月 24 日（水） 14 時 00 分～15 時 30 分
 - 2 開催場所 青少年女性センター 大会議室
 - 3 出席委員 松尾委員、山口委員、熊谷委員、田上委員、後藤委員、高瀬委員、柳谷委員、前川委員、宰務委員、鹿多委員、望月委員、岡本委員、和田委員（13 名）
 - 4 欠席委員 林委員
 - 5 出席職員 小南教育長、山本教育指導部長、杉本教育指導部次長、神吉教育指導部参事、福島社会教育・スポーツ振興課長、境学校教育課長、今津青少年育成課課長、加藤教育研究所長、沼田文化財調査研究センター所長、姫路少年自然の家所長、小浦中央図書館長、各公民館長（高橋館長、藤原館長、畠中館長、鳥居館長、有原館長、田口館長、竹内館長、福本館長、山脇館長、前田勝宏館長、前田博之館長、木村館長）、社会教育・スポーツ振興課（川上副課長、松本公民館統括担当、尾崎地域家庭教育係長、今井書記）
 - 6 傍聴者 0 名
 - 7 議事要旨
- 開会 14 時
委員長あいさつ、教育長あいさつ
- 教育指導部長・次長・参事・各所属長・事務局自己紹介

（協議事項）

- 1 社会教育関係団体への補助金の交付について
（社会教育・スポーツ振興課副課長及び青少年育成課長より説明）
意見なし
- 2 平成 31 年度社会教育委員活動計画（案）について
（社会教育・スポーツ振興課地域家庭教育係長より説明）
意見なし

（報告事項）

- 1 平成 31 年度各課事業の推進について
社会教育・スポーツ振興課、文化財調査研究センター、少年自然の家、中央図書館、加古川公民館より説明

委員

総合体育館の床のシートを新しくする件について、シートは据付けか競技するときだけ敷くのかどちらか。

社会教育・スポーツ振興課長

据付けのものを導入する予定である。床面のささくれが無くなるなど、怪我をしにくくなるという利点がある。

委員

今の床も弾力性があると思うが、ゴムシートを敷いて、他の競技に支障は無いのか。

社会教育・スポーツ振興課長

他の競技に支障は無いと聞いている。しかし、滑りにくくなるため、素足で行う剣道などの競技には、向かないと聞いている。

委員

すば一く加古川の予算が前年比 180%となっているが、どういった事業を予定しているのか。

社会教育・スポーツ振興課長

施設が老朽化しているため、アルミ扉やトイレなどの修繕費が計上されている。

委員

公民館について、各館いろいろな事業を行われているが、4人の体制でそれを維持していくことは難しいと思う。事業の再編について考えていくことも必要ではないか。

委員

加古川公民館の事業の中に、地域子育て創生事業として、子ども体験教室の講座があるが、これはどのようにして決定しているのか。

加古川公民館長

折り紙やパンフラワー等の指導ができる高齢者大学在籍中の方へ、得意分野を活かす形でボランティアとして指導いただくことを依頼している。また今年も、親子手打ちうどん教室を行う予定だが、これは地域で指導されている方に公民館からお願いしている。基本的には、公民館とボランティア、地域の方と相談して事業を決めている。

委員

高齢者大学について、入学者が今年度24名となっているが、この数は例年と比べてどうか。

加古川公民館長

加古川公民館では、昨年は34名となっており、減少傾向となっている。各館も同様の状況である。要因として、高齢者大学の入学年齢は60歳以上となっているが、最近では65歳までお勤めされている方が増えているため、減少傾向にあるのではないかと考える。

委員

地域リーダーとして、卒業生はどのような活動をされているのか。

加古川公民館長

高齢者大学での学習やパソコン、グラウンドゴルフなどのクラブ活動でいろんな体験、学習を重ねていただく中で、地域の様子を考えていただきながら、活かせるようなことを広めてほしいと伝えている。卒業後も、OB会や高齢者大学以外の場で、活動を継続されている方がいらっしゃる。また近年、ひとり住まいの方が増えているので、現在の受講者には、そういった方をお誘いいただくことで、地域の輪を広げていく役割を担っていただけたらと思う。

委員

兵庫県子ども会連合会加入補助金の予算について、団員数が9,100名で積算されている。平成28年度の報告では、小学生が8,143名で減少傾向にあり課題となっていた。平成30年度時点の団員数は何名か。また、団員数の確保に向けた対応策についてを検討する必要があると考える。

青少年育成課長

平成30年度では、小学生8,172名、中学生621名となっている。平成28年度と比較すると、小学生は増加しているが、中学生は減少している。少子化に伴い、児童生徒数は減少傾向にあるが、ここ数年、加入数は60%ほどで推移している。

委員

地域コミュニティ事業について、予算が前年度と比べて減っている。地域人材育成事業についてはコーディネーターやリーダーの育成が課題に挙がっていた。これらの予算の中で人材を増やしていく取り組みが計画されているのか。また、東加古川公民館用地整理事業が新規で計上されているが、公民館維持補修事業とはどう異なるのか。また、部内課題解決事業が前年度比 645%となっているが内容はこういったものか。

社会教育・スポーツ振興課副課長

東加古川公民館用地整理事業については、公民館維持補修事業とは別の予算組みで、公民館の底地測量の委託料を計上しており、公民館維持補修事業とは性質が異なるため、予算の管理上、別事業として整理している。部内課題解決事業については、全庁的な方針で、各部局が緊急の課題に対し臨機応変に対応できるように、一律 40 万円の予算が計上されたため、前年比で大幅に増加している。

加古川公民館長

地域コミュニティ事業の内、地域人材育成事業と地域子育て創生事業は公民館で行っている事業となる。この予算に計上されているのは、大半が講師謝金となっている。様々な事業を行う中で、ゼロ予算で行っている事業もあるため、予算額は減少しているが、事業の中身は後退しているものではないと考える。

委員

地域に根ざした人材が、報酬に関わらず地域に貢献をしているというのは、子どもたちの人格の醸成に寄与すると思う。しかし、共働き家庭が増えている時代の中で負担が大きいと声が上がっている。ゼロベースで、ボランティアに偏る計画にならないようにする必要があるのではないか。

委員

公民館は 4 人で運営されているが、別府公民館、尾上公民館について非常に事業が多い。これは、4 人で運営できているのか。

別府公民館長

経験が長い職員がいるため、うまく連携して運営している。

尾上公民館長

非常に苦慮しているのは実感としてある。指定管理の場合、いろんな事業をしていかないと成り立たないので、地域の方の声を聞きながら調整をしている。

委員

他の公民館は経験年数が浅い職員が多い。人数が限られている中で地域の方が良く動いてくれているのだと思う。この状態が続けばいいが、運営が困難になった時が心配である。

学校教育課、青少年育成課、教育研究所より説明

委員

教職員健康相談事業は、健康診断を行う事業なのか。

学校教育課長

健康診断だけでなく、安全衛生委員会における職場の衛生環境等について、産業医による助言やメンタルヘルスのチェック、相談なども含まれている。

委員

先生の心が気になる。知人に先生がいるが、事務作業も含めて多忙ではないかと感じる。先生が子どもに向き合える環境を整備することが大切なので、加古川市は先生の心も守ってほしい。

委員

いじめ防止啓発事業の予算が減少しているが、何が減ったのか。

学校教育課長

昨年度、いじめ防止スローガンの横断幕を各学校に設置した。それが完了したため、本年度は減少している。

委員

地域には青少年育成協議会、ユニット、評議員会など様々な組織があるので、組織の統合など、見直しについて検討いただきたい。

また、今朝の新聞で加古川市の自殺予防の取り組みであるゲートキーパーの記事が掲載されていた。私は人権擁護委員の活動をしており、全国的な取り組みとしてSOSミニレターを配布し、子どもたちの声を聞き取る活動を行っている。そういった既存のものを活用してほしい。

学校教育課長

子どもたちを取り巻く組織がいろいろあるため、それを集約できないかと意見をいただいていた。評議員会を置いている学校が学校運営協議会を設置する場合、評議員会を発展的解散とすることになっている。他にも様々な形で、家庭や学校をサポートするような協議会があるため、その整理については今後の課題と捉えている。

委員

私の子どもが通う小学校には、陸上部がある。先生方が9名関わってくださっており、朝早くから指導いただいている。昨年までは週4回だったが、先生の負担や登校班の編成等の事情により、今年は週2回になった。指導してくれる先生方に対する予算はあるのか。

学校教育課長

小学校については、課外クラブとして、陸上や金管バンドなどが行われている。予算としては計上されておらず、先生方のボランティアで実施している。中学校の部活動であれば、休日の引率等の手当はあるが、給与の中に反映されているものではない。

委員

小学校によっては、クラブがある学校とない学校があるので気になる。先生方はとても頑張って指導してくれているので、なにかできないものかと思う。

提言書の取り組み状況について

学校教育課、社会教育・スポーツ振興課より説明

(その他)

委員

学校運営協議会について、志方についてはユニットで行うこととなったが、他の地域でユニットで行うところはあるのか。また現在、学校運営協議会を組織しているところはどこか。

学校教育課長

単独で組織しているところは、中学校では5校、小学校では7校、幼稚園では2園ある。ユ

ニットでの組織については、志方ユニット以外は未定となっている。

委員

高齢者大学の入学者が減少してきている。衰退していくのは寂しいと思うが、何か対策は考えているのか。

加古川公民館長

高齢者人口は増えているが、高齢者大学の入学者については減少傾向にある。地域によっては入学者がとても少ないところがある。どの公民館でも同じように事業をしてきたが、地域性によって検討する必要があるのではないかと考える。入学者を増やすためには、高齢者大学自体の魅力を高める必要があると考えているが、近年、それぞれの人の楽しめることが増えたということも減少傾向である一因であると思う。そのような状況の中、従前どおりの展開でいいのか検討する必要があるので、それぞれの公民館で情報共有を行いながら運営について考えていきたい。

○ 閉会 15時30分
副委員長あいさつ

以上